

ベルゲーゼン博士の訃

山田幸男

デンマークの海藻学者フレデリック・ベルゲーゼン博士 (Dr. Phil. FREDERIK C. E. BOEGESEN) は本年3月22日90歳の高齢を以て逝去された。同博士は34年の長きに亘つてコペンハーゲン大学附属の植物博物館のライブラリアンの職に在り、在職中は勿論退職後も引き続き海藻の、主として分類学的研究に従事され、その業績は枚挙に遑ない程である。筆者は約25年以前デンマルクを訪れた際色々御厄介になつたが、又昨年夏久し振りに再会の機を得親しくその讐咳に接することを得たが、その頃まではまだ研究に従事され自分がその年齢を問うた際に、もう直きに90歳になるので仕事は止める積りであると答えられた。然し健康そうに見え、耳も目も不自由なく又記憶力も確かで仲々90歳になる老人とは思われなかつた。それが今日遽にその訃報をきくとは誠に痛惜にたえない。

上に述べた様に永い間の博士の研究は世界の各地のフロラに及ぶが、その主なるものを下に挙げるならば、第一はFOERÖESのフロラの研究で己に1897年頃から数回自ら同地に渡つて研究を行いその成果は1901年から引続き発行された *Botany of FOERÖES, I-III* 等に数篇の論文として発表された。これは寒地のフロラであるが、その後は多く南方のフロラの闡明に精進された。即ち先づ有名な西印度諸島海藻フロラの研究でその結果は1913年以後引続き *The marine algae of the Danish West Indies* なる論文として発表され以後暖海の花藻の研究には欠くべからざる宝典となつた。其の後1920-1921年博士はカナリヤ群島に採集旅行を行い、その結果は1925年から1930年に亘つて *Marine algae from the Canary Islands* として発表された。それから博士は印度地方に旅行して採集に従事された(1927-1925)。 *Contributions to a South Indian marine algae flora; Some Indian Rhodophyceae, especially from the shores of the Presidency of Bombay, I-IV* 等々の論文はその採集材料を基として生れたものである。又比較的近年は主としてMauritius産海藻の研究に没頭し1954年に発表された *Some marine algae from Mauritius. Additions to the parts previously published, VI* は此の研究に関する最後の論文となつた。

上の様に50年以上も海藻の研究に終始し多くの輝かしい貢献をされた博士を失った事は世界の藻学会にとってその損失はかり得ざるものがあり誠に痛惜にたえず、此処に謹んでその冥福を祈る次第である。

尚同博士所蔵の海藻に関する図書、論文別刷等は遺族より一括して研究所、大学等適当な機関に譲渡の希望の由である（価3000米弗）。

（北海道大学理学部植物学教室）

新著紹介

海藻圖鑑二題

戦後、採集した海藻の名をしらべるのに手頃な原色図鑑がなく非常に不便を感じていた。本年になつて相次いで二つの何れも優秀な図鑑が発行され、比較的安価に手に入る様になつたことは、海藻に関係する者として非常に有難いことと思つている。

岡田喜一著

原色日本海藻図鑑

昭和9年に三省堂から発行された同じ著者の「原色海藻図譜」は戦前採集者必携の書として定評があつたが、戦後絶版となり手に入れにくくなつていた。今回風間書房から、同じ図版を複製し、説明を多少改めたものが上の書名で発行された。海藻約370種の大きな美しい原色図に簡潔な説明がつけられていて、巻頭と巻末に海藻の種類・利用・分布、採集法と標本製作法がわかり易く解説されている。採集の時の良い手引であり、図が大きく鮮明で、特に初心者にとっては採集品を図とひきくらべて名をしらべるのに好適である。（風間書房発行、1,000円）

瀬川宗吉著

原色日本海藻図鑑

約590種の海藻の $\frac{2}{3}$ 大の原色図とその解説に加えて、これだけでは種の固定が困難なものについては必要な外形又は内部構造の図解が添えてあるのは親切である。解説の間に属・種の検索表も入っている。巻末に海藻の分布・生活様式・採集の方法と注意・採集物の処理と輸送・標本の製作法と整理法及び種の同定法が25頁にわたつて記述され、分類に因